



伝統文化「人形浄瑠璃」を未来につなぐ!

MINGEI



「人形浄瑠璃」は、日本の伝統芸能で、浄瑠璃と人形によって演じられる人形劇である。ひとつの人形を3人で操り、主遣い（おもづかい）が首（かしら）と右手、左遣いが左手、足遣いが脚を担う。川内中学校の民芸部の生徒は、専門的な技術を習得しようと日々稽古を重ねている。

【川内中学校民芸部】2年生3人、1年生5人の部員があり、顧問の先生や外部講師から、基本的な人形の操作方法について、指導を受けている。10月公演の「ジュニア浄瑠璃フェスティバル」本番に向け、熱の入った稽古が続けられた。

民芸部が稽古をしている「傾城阿波の鳴門」の順礼歌の段は、長年離れて暮らした母（お弓）と子（おつる）が再会する場面が一番の見せ場である。おつるの両親を恋う気持ち、お弓の我が子を思う愛情と葛藤が、臨場感たっぷりの語りと三味線で表現され、胸を打つ感動の場面である。そのため、人形を操る繊細な技術と表現力が求められる。

頑張れ!川中民芸部!

今年の川中祭（文化祭）でも、人形で阿波おどりやパプリカを踊り、評判だったそうだ。顧問の先生は、「まずは、人形浄瑠璃って何？と、興味をもってほしい。面白さを広く知ってもらいたい。」と熱く語られていた。

稽古の一場面

頭を下げるタイミングが難しいなあ。



おつる。母と感動の再会の場面。

体をどちらに向けたらいいのかな？



別々に稽古をして、最後に合わせ稽古。息を合わせて！

人形の視線を常に意識だね。



お弓。縫い物をしている様子を表現。

左手で布をしっかりとつかんで。

顧問の先生



伝統芸能を守るというより、人形浄瑠璃に親しみをもって、楽しんでほしいです。

小原 伸二 教諭

公演がうまくいった時の満足感、爽快感を味わってほしいです。そうそう、その調子だよ！





外部講師



自分の体の向きや人形の視線に気をつけようね。一つ一つ動きに3人で気持ちをそろえることが大切だよ。

人形浄瑠璃を知っている人を絶やしたくないです。楽しさを知ってもらって、そして、未来へとつないでいきたいです。



森本 恵子さん（みらい塾代表）

そして、ジュニア浄瑠璃フェスティバル本番・・・

練習の成果がよく出ているぞ。



みんなの気持ち一つになっているぞ。



引っ張り合うタイミングをうまく合わせないと。

布がふにゃつとにならないように、ピンと張っておかないと。



第6回ジュニア浄瑠璃フェスティバル
開催日：2021年10月24日（日）
場所：阿波市交流防災拠点施設アエルワ

**力を合わせて頑張りました!
川中民芸部、最高!**